

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500088		
法人名	株式会社 大日向建築		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	秋田県にかほ市三森字午ノ浜126-1		
自己評価作成日	令和5年8月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「安心・安全・快適」に入居者様が暮らせることを目標としています。入居者様が笑顔多く、メリハリのある生活が送れるように努めています。コロナ禍で施設内での生活が続いた為、生活が不活性化しない様にゲームやレクリエーション・行事で楽しみました。食べることも大好きな方が多く、行事食・おやつバイキング等で美味しい物も沢山食べました。炭酸泉を使った足浴も好評で、どんなに暑い日でも熱めのお湯に足を入れ歌を歌ったり、体操をしてみんなでワイワイ過ごしています。職員と入居者様との関係と、入居者様同士の関係もよくなじみの関係が築けていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフが持ち回りで調理を担当しており、検食簿にはそれぞれの気づきや感想が記入されている。季節の食材を取り入れるよう努めており、利用者が下さりえしたゼンマイは好評。畑の里芋で芋煮会。仕出し弁当や握り寿司の出前も楽しめる。一般浴が利用できなくなっても、ゆったりと浴槽に浸かりたいとの思いに配慮し、特浴を増設。炭酸泉を導入しており、利用者の足の裏はいつでもツルツルとのこと。広い廊下のソファに桶を並べた炭酸泉の足湯も人気で、声かけだけで皆さん喜んで集まってくれる。25メートルにも及ぶホームの廊下がとにかく広く長い。ミニ運動会も楽しめる程で、廊下でのスイカ割は好評。ハザードマップ上、津波の危険地帯とのこと、高台まで車椅子でも避難できるよう避難路を整備中。経営者が建築業ならではの判断に驚く。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の見えるところに掲示している。また理念に沿った介護計画書を作成し入居者1人1人の目標を設定し評価している。	パンフレットの冒頭に、開設当初に作成された～かがやき理念～が掲載されている。5行に及ぶ比較的長い文章で構成されているため、理念を基により明快で～安心・安全・快適～から始まる目標を作成し、スタッフへの浸透に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前のように地域行事はコロナ禍でここ数年参加できていなかったが、今年の納涼祭は4年ぶり地域の方やボランティアの方の協力もあり盛大に行うことができた。	地域の夏祭り(納涼祭)にホームが招待されるばかりでなく、事業所主催の納涼祭を地域住民の協力のもと開催している。芸達者なスタッフの大黒舞やユーチューバーによる秋田弁での地元ネタ等々で楽しむ。自治会長や民生委員の存在が大きい。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	職員の中に認知症キャラバンメイト・認知症サポーターがいる。また、9月のアルツハイマー月間に市の展示場に入居者の作品を展示して認知症でもこんなことができるということを市民に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、行政・自治会長・民生委員の方々に参加していただき活動内容を報告している。その中で様々な助言をいただいたり、情報交換の場となっている。	デイサービスの管理者と相談員も参加し、合同で開催。民生委員にとって運営推進会議が有意義な情報交換の場となっており、ホームの利用に繋がることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加と、入居者の中に生保の方もいるので福祉事務所の職員とも連携を取るようになっている。	運営推進会議に市の担当部署の職員が交代で参加してくれ、よりホームの実態を理解いただく機会となっている。生活保護担当が参加することもある。市役所までは、車で3分の距離にあり、日頃から連絡を取りあっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルは誰でもすぐ見れるところに置かれていて、いつでも確認できるようになっている。日常の声掛けや、関わりの中での何気ない言葉の暴力も無いように気を付けながら日々の業務に取り組んでいる。	3名の身体拘束廃止委員の調整により、身体拘束廃止委員会が3ヶ月毎にホームを会場に開催されている。関連するマニュアルは、スタッフがいつでも手に取れる位置に整備されている。本人の意思で、布団が落ちないように壁とベッドを密着させた事例、ベッドの4点柵等々、ホームでの生活の中で、具体的に何が拘束に該当するのか検討し、関係部署に問い合わせた事例が確認できた。由利本荘市・にかほ地区グループホーム連絡協議会主催のアンガーマネジメント・身体拘束防止・虐待防止の研修にスタッフが参加予定であり、研修参加者による伝達研修も計画されている。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、以前は日常生活自立支援事業を利用していた時もある。希望されるご家族には情報提供している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が主に行い、その際に不安やわからないところはしっかり聞くようにして、十分な説明の元行っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。過去にご家族から意見が上がったことがあるがその後はない。日頃から日常的にどんなことでも話せるような関係性を築くようにしている。	コロナ禍、家族より「青空を見せて欲しい」「もっと話かけて欲しい」との要望を受け、猛暑に配慮し、短時間ではあるが、玄関の外で過ごしたり、自動販売機まで飲み物を購入に出かけたり、廊下の窓から花が眺められるよう、鉢植えの大きな花々を設置したりし、ホームなりに様々な工夫をこらしている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	意見交換としての時間は特に取っていないが、日常業務の中の会話で意見として聞くことがある。必要に応じて、管理者から代表へ報告していることもある。	経営主体が建築のプロとあって、利用者の心身状態の変化に合わせて工夫することで、さらに使いやすいホームを目指している。スタッフからの改築等の要望に即対応してくれていることが、ホーム内を一見すると感じられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でここ数年交流する機会がなくなっていたが、今後以前のような研修会・情報交換会・意見交換会等に職員の参加も考えていきたい。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護計画書を作成するうえで、十分な聞き取りを行い、意向を聞き入居者が望む生活が送れるように職員が共有して同じ方向性で取り組んでいる。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたり、本人・ご家族と十分な聞き取りを行い入居後に安心して生活できるようにしている。また、在宅担当ケアマネや病院関係者とも話して情報共有に努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	“できること”を見つけ、食器拭き・布巾干し・ゴミ捨て・洗濯たたみ等分担して行っている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1度のかがやき通信や、面会時、電話等でご家族に現状の報告し変化に応じた対応を行っている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	最近では携帯電話を持っている入居者が多く自ら連絡を取っている方が増えている。また、お花が届いた時にはお礼の手紙を書いてもらい郵送している。	一旦収束したかに思われたコロナ禍、市内の各学校で学級閉鎖等が再び発生しており、再度面会中止をせざるを得ない状況にある。玄関で窓越しに面会できるよう工夫することで、互いにマスク無しで対面できたとのこと。又、2号館も含めると4名の利用者が携帯電話を所有し、家族等と連絡を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士気が合う、合わないがある為席替えを行ったり、職員が間に入ったりみんなで楽しめるような場(軽体操・ゲーム)の提供をしている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者やケアマネを中心に、入院や施設移動時には必要に応じた情報提供を行いスムーズに生活が送れるよう支援している。		
19	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で会話を多くして気持ちや思いをくみ取る。また毎月の介護計画書に対する評価、会議などを利用して話し合い対応につなげている。	感染予防の観点から外出が制限される中、その日の気分に合わせて行えるゲームや作業、DVD鑑賞等レパトリーを増やし、利用者が好きなことを自分で選択して楽しみを見つけられるようにしている。また、個々の趣味や特技を書き出し取り入れ、気分転換に繋がるよう取り組んでいる。利用者スタッフが1対1になれる、入浴・掃除・トイレ介助の時間は、「あなただから言うけれど」との前置きから始まる普段食堂では聞けない本音が聞けるとても大事な時間。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を本人・家族・ケアマネから聞き情報を得ている。また自宅で使っていたなじみの物(タンス・椅子・テレビ)の持参で空間作りもできるようにしている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎日の申し送りやGH会議、定期的なモニタリング等で情報共有している。介護計画書に基づいた評価も毎月担当者が行っている。	居室担当制を導入しており、居室担当者からの思いや気づきを基に、本人からの聞き取りや、家族からの要望、以前担当していたケアマネージャーからの情報を吟味し、担当者会議を開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用していつでも誰でも確認できるようにしている。その他各チェック表を利用して変化や状態の把握に活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で施設外に出ることが出来ない期間が続いたが、今は地域の床屋さんによる散髪や、施設前の散歩ができるようになり少しずつ以前のように戻ってきている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医に限らず、市内の医療機関の往診や、その他歯科受診等をご家族の協力を得てかかりつけ医への対応が出来ている。また、ご家族対応の受診時は必要に応じて生活の様子等書面での報告もしている。	嘱託医である加藤医院・小出診療所・きさかたクリニックの3医療機関が往診に対応してくれている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かがやきには週2日看護師の出勤日がある。その他嘱託医院より月1回の訪問看護の訪問ありその都度変化等あれば報告でき、嘱託医との連携もとれている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は状態確認の連絡を入れたり、退院時には看護サマリーを依頼したり、状態確認の為に訪問する事もある。その他必要に応じて管理者、ケアマネ、看護師が情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族・主治医との話し合いを重ね過去に看取った事例がある。状態の変化があった時は職員間で共有し、主治医に相談したり、ご家族にも状態報告している。	開設以来2件の看取りの経験を有する。入居時に「重度化した場合における介護指針」に基づき、事業所でできることを十分に説明し、同意を得ている。嘱託医の他、利用者それぞれのかかりつけ医との連携が重要であることはもちろん、常勤の看護師の存在は心強い。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習終了している職員が多く、緊急時の連絡体制も職員間で共有できている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。現在近くの高台に避難できるように整備している。夜間を想定した避難訓練はなかなかできず、日中に行っている。	ハザードマップ上、津波の危険地帯とのことで、高台まで車椅子でも避難できるよう避難路を整備中。経営者が建築業ならではの判断に驚く。近隣の用水路も水かさが増し、危険とのことで、ホーム前の用水路はすでに安全に整備されていた。	夜間の避難について不安があるとのこと。早めに検討し、ショートステイ等の協力も視野に入れた夜間想定避難訓練や夜間想定への駆けつけ訓練等を実施するよう期待します。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの性格や生活歴、その時の状況に合わせて丁寧語・尊敬語・地元言葉・身振り手振りで会話し、羞恥心に配慮した声掛けを心がけている。	言葉使いは丁寧過ぎても不自然であり、何気ない方言も活用しながら、利用者個々に合わせ、人格を尊重した会話等に心がけている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めの希望に対応したり、散髪の希望にも床屋さんの来設で対応してる。また外出時の衣類や身だしなみにも気を付けている。日頃から清潔な身だしなみで生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食・各イベント・誕生会・バイキング等食事だけでなく、おやつでも楽しんで頂いている。また季節の山菜の下処理は入居者の方が手際よく手伝ってもらっている。	昼は肉、夕は魚を基本としている。スタッフが持ち回りで調理を担当しており、毎食、別のスタッフが交代で利用者と同じものを同じ時間に検食し、検食簿にはそれぞれの気づきや感想が記入されている。季節の食材を取り入れるよう努めており、利用者が下ごしらえしたゼンマイは好評。畑の里芋で芋煮会。仕出し弁当や握り寿司の出前も楽しめる。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量、食事形態、箸だけでなくスプーンに変える、トロミを付ける等その方が食べやすい方法を見つけて提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	部分入れ歯、総入れ歯、自歯の方とその方に合わせ声掛けや見守り、介助で対応している。チェック表へのチェックもあり毎食後確認できるようになっている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。また日中と夜間で使用するオムツ・パット類の種類を変えるなど、1日快適に不快なく過ごせるように支援している。	羞恥心に配慮しながら、排泄チェック表の活用による一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、排泄の自立に向け取り組んでいる。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に冷たい牛乳やポカリを提供して腸に刺激を与えている。また下剤を使用している方が多く、排便状況を確認して下剤も調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回行い、個浴と中間浴をADLに合わせて利用している。特に入浴中は会話が弾む為コミュニケーションが取りやすい。また週2回の足浴も軽体操や歌を歌って楽しみながら行っている。	利用者の身体状況の変化により、一般浴の利用に支障が生じても、ゆったりと槽に浸かりたい思いに配慮し、特浴を改築している。炭酸泉を導入しており、利用者の足の裏はいつでもツルツルとのこと。広い廊下のソファに桶を並べた炭酸泉の足湯も人気で、声かけだけで皆さん喜んで集まってくれる。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なため、基本休みたいときに休むことが出来ている。夜間眠れない時は食堂でテレビを観て過ごしたり個々に合わせて対応している。夜間は基本よく眠れている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のフェイルに服薬内容がわかる明細書がある為いつでも確認できるようになっている。また薬の変更後の変化や状況の報告も主治医と取り連携している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として、布巾干し・食器拭き・洗濯物たみは毎日行っている。また玄関先に出て外の空気を吸ったり、木々を眺め気分転換に努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で数年前のように外出が出来なかったが、今年はお花見等の外出ができるようになってきている。また受診時にご家族と外食したり、ドライブしたりもできている方もいる。	コロナ禍が下火になり、早速、秋田県でいちばん早く桜便りを届けてくれる勢至公園を訪れ、6月には、市内のフェライト子ども科学館へ出向き、50種類、約650本のバラを満喫。以前は、回転寿司・ファミリーレストラン、折渡千体地蔵等々率先して戸外に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	物忘れや、物取られ妄想での他者とのトラブルを避けるためご家族様や本人に説明をして全員分を金庫で保管している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日温度・湿度の測定をして快適な環境で生活できるように対応してる。また季節の花を飾ったり、カレンダー制作をして廊下や各居室に貼っている。	ホームの廊下がとにかく広くて長い。25メートルに及ぶとのことで、ミニ運動会も楽しめる程、廊下でのスイカ割は好評。共用空間のあちこちに利用者の手作りの作品が掲示されている。地元の有名写真家の作品がホーム内の壁に飾られ、特に地元の風景をバックにした愛くるしい猫の写真が印象的である。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と廊下にソファがあり自由に使用でき横になる方や入居者同士談笑したり楽しんでいる姿がみられる。居室にもテレビのある方は好きな番組を好きな時に観れている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたテレビやタンス、椅子を持参されている。居室によって家具の配置が異なり、自分の居室という認識が出来る。	各居室にエアコンとギャジベット、一般家庭用サイズの洗面台が備え付けられている。白をベースの居室はとても明るく感じられる。一般家庭サイズのテレビを持ち込んで楽しむ方も確認できた。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にはわかりやすく名前を付けている。廊下、トイレ、浴室には手すりが多く安全な移動・動作ができるように配慮している。		